

令和5年度

呉中央学園だより



令和6年3月発行

呉中央学園小中一貫教育 Co.

本学園では、『自分を育てる』という学校教育目標のもと、9年間を見通した教育活動を行っています。新型コロナウイルス感染症の影響で、それまで行っていた様々な小中交流の取組ができなくなりましたが、今年度は5類になったことで規制が緩和され、少しずつ小中交流を再開しようと取り組んできました。

今年度の本学園の小中交流について紹介します。

乗り入れ授業

★6学年外国語科

小学校の6年生が中学校の英語の先生に授業をしてもらいました。

“何だか難しそう”という先入観を吹き飛ばすくらい、楽しく学ぶことができたようです。中学校からの英語科の学習が楽しみになった児童も多いのではないのでしょうか。



異学年交流

★陸上教室

小学校の陸上教室に、中学校の陸上部が参加し、様々な練習法を教えてくださいました。先輩や中学校の先生を前に、少し緊張気味の小学生でしたが、分かりやすく教えてもらい、楽しく練習に取り組むことができました。



★あいさつ運動

毎月小学校の4・6年生が行っている子ども交通安全隊の活動に中学生も参加して合同で挨拶運動を行いました。「おはようございます」という元気な挨拶が響きました。

★吹奏楽部×トランペット鼓隊

小学校の伝統であるトランペット鼓隊が吹奏楽部と合同練習を行いました。中学生はかつての自分を振り返りながら、より良い音色になるように的確にアドバイスをしてくれました。

★5・7交流

5年生の総合的な学習の時間で、5年生から7年生に向けてインタビューをしました。先輩の思いを聞くことで、トランペット鼓隊への思いをより強くすることができました。

来年度に向けて

今年度はまだまだ十分な取組ができたとはいえない状況ですが、施設一体型の本学園の強みや本中学校区の特色を生かし、さらに小中の教職員がしっかりと縦・横の連携を図って、小中一貫教育を推進していきたいと考えています。児童生徒の目指す姿をイメージし、カリキュラムを見直して、新たな本学園の小中一貫教育の取組を創造していきたいと思ひます。